

第3回研究設備センター先端研究設備部門会議議事録

日時：平成24年11月6日 16:30～17:40

場所：東8号館406会議室

出席者：青山、牧、守屋、桑原、小島（産学官連携センター）、加藤研究支援員、野崎（敬称略）

審議事項

1. 都立産業技術センターからの見学

産学連携センター小島さんより、12月19日に行われる都立産業技術センターの方の見学会について、説明があった。基盤研究設備部門、先端研究設備部門の見学時間を45分とし、先端研究設備部門は、展示パネルを加藤研究支援員が説明し、特に関心のあがる装置については時間の許す限り紹介し、時間が足りない場合は後日再び、その設備に関する見学会を行うことにした。見学終了後16時からの面談には先端研究設備部門からは、部門長、加藤研究支援員が参加する。

2. 先端研究部門学術技師人事提案

前回の部門会議で了承された先端研究部門に必要な学術技師の提案書を提出した結果、教育研究技師部より、大学全体の業務（特に教育を主とする）の提案を基盤設備部門と融合させてまとめるよう要請があったことが桑原先生より説明された。部門長と桑原先生により両部門の要求を融合した大学全体の業務を主とした提案書を作成する。その内容は、薬品、高圧ガスなどの安全管理が望ましいとされる。

3. 装置の更新および設備マスタープランについて先端研究設備部門の対応

先端研究設備部門では、使用状況、更新の必要性から判断して先端研究設備部門内の装置について順位づけを行った。事前に室長に記入していただいた表をもとに、電子線描画装置（材料・デバイス）、走査形電子顕微鏡（材料・デバイス）、有機金属気相成長装置（材料・デバイス）、微小表面材料評価システム（機械・ロボット）、超微細放電加工装置（機械・ロボット）、超深度形状測定顕微鏡システム（機械・ロボット）、走査形プローブ顕微鏡（材料・デバイス）のうち3000万円以下の最後の4つの装置を除いて先端研究設備部門からのマスタープラン候補とすることを決めた。最後の4つは、青山先生と部門長で一つの3000万円以上のシステムとしてまとめ上げ、次年度に検討することとした。優先順位については、電子線描画装置は、次年度概算で内々定となっているが一番とし、走査形電子顕微鏡は、基盤設備部門から提案される可能性が高いので申請時期をずらすということで、第2は有機金属気相成長装置、第3は走査形電子顕微鏡とした。

4. 3室連携ルームについて

3室連携ルームについて加藤研究支援員により整備され、ドアには電子錠が設置された

ことが報告された。光・バイオ室からの要求の冷蔵庫、冷凍庫の購入を了承した。

5. 研究成果報告書について

研究設備センターの研究成果報告書の原稿がそろったことが部門長より報告された。

6. その他

先端研究設備部門の予算(WN01 は除く)については、装置ごとに最終的にまとめるよう部門長から要請があった。

次回（第 4 回）先端研究設備部門会議開催予定日は後日調整して 1 月ごろに実施する。議題は来年度の部門長選出について。